

H. N. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

中学生で英語を学び始めた頃から英語の楽しさに目覚め、もっと英語ができるようになりたい、という思いが芽生えてきました。友人や知人から海外生活のことを聞いたり、ドラマや映画などで海外の風景を観たりしているうちに、日本語と英語の 2 か国語を堪能に使える人や海外生活への憧れも大きくなっていきました。それがきっかけのひとつとなり、英語英文学科を受験しました。私は大学入学時に、限られた 4 年間で悔いなく過ごせるように、できるだけ多くやりたいことは実現させたいという目標を掲げ、その中で最も優先順位の高かったものが、中学生のころから憧れていた海外留学でした。その後、クラスメイトや先生、先輩、家族から大学の国際課のこと、協定留学プログラムの存在を教えていただき、興味を持ち始めました。それからは、国際課に通い、留学プログラムの説明会や勉強会に参加しました。このプログラムのことを調べていき、休学せずに留学に行けること、現地で取得した単位を同女の単位にも読替できることに魅力を感じ、協定留学を本格的に目指し始めました。ちょうど私が 1 年生の頃、他大学に通っていた兄もワーキングホリデーという形でアメリカに留学することなどもあり、それが刺激となって、より私の留学への想いは強くなっていました。はじめは単に憧れで、できたらいいなという程度の気持ちでしたが、身近な人が実際に海外に行ったりするのを見たり、自分自身はそれまで海外に一度も行ったことがなかったこと、大学受験時からなんとなく全力で何かを頑張った記憶がなく自分への自信が薄れていっていたこともあり、絶対に留学を実現させないといけない、知らない世界を見て、経験して自分の視野を広げ経験値を上げたいという想いが強くなりました。これらが主な理由として 1 年生の夏には本格的に IELTS の勉強を始めました。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

私は表象文化学部・英語英文学科に所属しているため、普通の授業から英語に触れられる時間は比較的多く、授業内でできるだけ英語学習を進めようと努めていました。しかし、自分の英語に全く自信も実力もなく、特に **Speaking** が私の中で一番大きな課題でした。なので、国際課が実施している、言語学習プログラムの”**English Speaking & Writing Support**” を利用し、週に 2 回、20 分程度の時間を確保して英語で実際に会話するようにしていました。授業とはまた違った日常会話を練習できたので、相槌の仕方や自分の考えをどう相手に伝えればいいのかなどを学べ、だんだん英語を話すことに慣れることが出来ました。1 年生の夏には、こちらも国際課で実施されていた **TOEFL** キャンプに参加し、英語漬けの約 1 週間を過ごしました。キャンプ中は他学部、他学年の方と出会えて、**TOEFL** や **IELTS** で目標スコアを取りたい、留学に行きたい、と同じ目標を持った人と一緒に英語を勉強できたのでモチベーションが上がり、刺激の多い充実した時間を過ごせました。このキャンプの経験もあ

り、夏以降はより留学への意欲が高まり、IELTS の勉強を本格的に始めました。同じ英語英文学科で協定留学に行かれていた親しい先輩に留学の話や、IELTS 対策をどうしていたかなどを聞き、教材（三修社 ” IELTS 32 のドリル+模試”）も頂いて、それを利用して勉強していました。IELTS の長文筆記、Speaking に注力して対策をしました。筆記や Speaking テストの傾向や主な模範解答の形式は教材を参考にし、Speaking や Listening に向けては、自分の中の英語の会話パターンを増やし、耳を英語にならすために、通学時には授業で使うテキストや教材についている音源を聞くようにしていました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

私は当初、2020 年秋スタートの予定でしたが、コロナウイルスの影響で1年間の延期をしました。それも政府によって留学生の渡航を止められており、いつ事態が収まるのかが全く読めない状況でした。そのため、コロナ禍の期間でせつかく IELTS のために勉強して伸ばした英語力を衰えさせたくない、急に留学に行けるようになって今でも今のままだと英語でちょっとした会話すらも出来る自信がない、と思ったため、オンラインの英会話教室（レアジョブ）を利用して、できるだけ毎日英語の会話を練習していました。また、コロナ禍で少し留学や海外への想いが冷めてきてしまった時期もありましたが、海外の方の YouTube を見るなどしてモチベーションを保っていました。そうして1年待って、2021 年6月半ば、急遽、政府から渡航許可が下りました。それまで、私は「また延期になるだろう」、と正直なところ気を抜いており予防接種などの準備も一度中断していました。そのため、6月半ばから8月初旬の出発までどたばたの準備期間でした。通常の予防接種に加え、コロナウイルスのワクチンも2回打たなければならず、病院の先生と相談しながらなんとか間に合うようにワクチンのスケジュールを組んでいただけました。いつ渡航できるかわからなかったため、ビザ取得も先延ばしにしていたので、こちらも急いで予定を組み準備しました。私はエージェントにお願いせず全て自分で行いましたが、スケジュールリングや細かい申請作業の手間を少しでも軽くできるなら、お願いしてもよかったかもしれないと思います。

④ 現地到着後

Chatham 大学の国際課の方と渡航前から連絡を取り合っていたので、事前に飛行機の時間をお伝えして、空港内で待ち合わせました。その際に、オリエンテーション、留学生や新入生向けイベントのスケジュールが書かれた書類を受け取りました。空港からは1時間弱で大学に着いたと思います。旅行などで空港へ向かうときはバス1本、約1時間で行くことができたので便利でした。当時は、まだコロナ禍で国ごとに状況が様々で、人によっては留学中滞在する寮の部屋とは別の建物での隔離が必要な方もいたようです。私は特に完全な隔離は必要ありませんでしたが、本来のプログラム開始日より1週間は早めについていなければいけませんでした。留学プログラムが始まるまで約1週間は自由な時間があつたので、そのおかげで近所を探索してどこにスーパーがあるか、大学の施設がどこに何があるかなどを知り、生活に慣れることが出来ました。1週間の隔離期間後、アメリカ国外から入学した新入生や私たちのような交換留学生全員対象のオリエンテーションがありました。

寮や大学での過ごし方やビザについての注意事項などの共有がされました。長めのオリエンテーションだったので、食事も提供されました。大学のあるピッツバーグでのおすすめの場所などもパワーポイントを用いて紹介してもらいました。本格的な授業が始まるまでの期間で、寮生が利用できるポストオフィスの鍵をもらうなどの手続きを済ませました。その他手続きで不備があった際は、主に国際課の方が直接メールなどで連絡してくれ、国際課に出向けばサポートをしてもらえたので特に心配することなく諸手続きを済ませられました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

寮から近い位置に語学研修のクラスを受ける校舎がありました。大学の真ん中にある広場やカフェ、図書館にも近く便利でした。主に地下にある教室で授業を受けていました。Academic Skills の授業はパソコンのある教室で受け、自分のパソコンと教室のパソコンのどちらも使っていました。国際課や ESL 担当の先生の部屋も同じフロアにあり、わからないことがあればすぐ尋ねられます。冷房などもついており過ごしやすかったです。Academic Skills のクラスは初めに能力を測るテストを受け、その結果に従ってクラス分けがされます。私が受けていた時は、語学研修を受ける生徒が約 10 名いました。上位クラスに分けられ、そのクラスは私を含めて 6 名でした。6 人中 4 人が同女生だったので、日本人とばかり話すことを避けるために少し離れて、いつも最前列に座るよう心掛けていました。なので、授業中、ディスカッションで 2 グループに分かれる時は、必ず一人は日本人以外の子とも話せました。1 学期目、Academic Skills のクラスのほかに、文学を学ぶクラス、アメリカ文化を学ぶクラスも受講していました。そのクラスでは、ESL ではなく正規クラスを受講しているほかの留学生とも交流できたのが楽しかったです。ESL、留学生向けの授業を担当されている先生は全体で 3 人いて、そのうちの 2 人のクラスを受けていましたが、どちらの先生もとてもやさしく丁寧に指導して下さいました。

◆ 授業内容、課題、試験

・ Academic Composition(ELI104)

主に IELTS テストに向けた Writing の勉強でした。IELTS の形式に沿ってグラフの読み取り、自分の意見を書く、などを練習しました。主な課題は、授業内でできなかった Writing の残り、テキストのタスクなどで、あまり難易度も高くなく、量もなかったです。学期の中間、終盤には成績に関わる課題やテストがありました。その際は、いつもより少し難易度の高い課題に沿って長めの文章を書かなければなりませんでした。授業中も、一つ一つの課題も、生徒数が少なく先生との距離が近いので、一人ひとりに合わせて丁寧なフィードバックがもらえました。Academic Communication Skills (ELI108)は主に Speaking です。テキストに沿って、様々なトピックを扱いました。様々な国籍の人とトピックに沿った意見交換ができるので、英語の練習だけでなく、幅広く知識もつけることができたり、改めて自分の意見や文化について考えられて、面白かったです。課題は、アプリを使って 1 週間の出来事をレコーディングして提出するものがありました。また、次回のグループディスカッション

で話す内容を考えておく、新出単語の予習などもありました。試験は、学期中間はクラスメイトにおすすしたい習慣について短めのプレゼンテーションをしました。学期末は先生との1対1で、その場でいわれる質問について、1分半~2分間、沈黙などなく自分の言葉で話せるか、という試験でした。このテストも IELTS のテスト形式に似ていました。こちらもしっかりフィードバックが頂けて、自分の改善点を明確にできたのでよかったです。

・ American Literature(ELP122)

テキストに載っている短い作品と実際の書籍3冊ほどを読み文学について学びました。1冊の本を読み終わった後は実写化された映画も見せてもらえたので、よりストーリーの理解が深まりました。定期的に作者や作品、単語の小テストがあり、中間や学期末にはそれらをまとめたテストがありました。予習や復習、テスト前の振り返りをしておけばしっかり点数を取れると思います。映画を見る際には、先生がお菓子を持ってきてくれました。授業内で読む本も自分で買う必要はなく、先生が図書館で借りてきてくれました。US Culture I (ELI191)は、正規授業も取っている留学生や下級クラスにいた留学生もいて、ほとんど全員の交換留学生が履修していました。宗教、結婚、マナー、などの分野ごとのアメリカの文化をテキストに沿って学びました。テキスト1章の Reading、新出単語の予習は他の科目に比べて時間がかかり少し大変でした。授業内では毎回4人ほどが1グループになって、答え合わせと意見交換の時間がありました。その時に、それぞれの国の文化についても知れたのがとても面白い時間だったと思います。また、アメリカの州について一人ひとりプレゼンテーションもありました。準備は少し大変でしたが、自分のプレゼン準備のリサーチと、クラスメイトのプレゼンからアメリカ各地の歴史や特徴・観光名所のことをよく知ることができました。なお、それがきっかけとなって休暇期間に実際に旅行に行った州もあるほど、アメリカのことが学べるいい授業だったと思います。クラスメイトとの話し合いで日本の文化や政治についての意見を聞かれることがあったのに、日本のことをあまりよく知らず困ったことがありました。その経験以降、自分の国にももっと興味を持つようになりました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

語学研修と同じ校舎、図書館内にある教室、寮から徒歩10分ほど離れた校舎など、授業によって場所が変わったので、初めは少し不安でしたが、授業と授業の間に時間が十分に取れていた移動に問題はありませんでした。語学研修までとは違い、現地の学生に交じって授業が受けられたので、慣れるまでは不安は少なく、授業に行く前は緊張していました。1つ1つの授業が少人数で、多くても30人ほどでした。なので、わからないことや課題のことで疑問があったら、先生に直接聞きに行ったり、メールを送ればほとんどの先生はすぐに返信をくれ対応してくださいました。どの授業の先生も、わからないこと、留学生で英語に不安があることを素直に伝えると、優しく対応して下さったのがとてもありがたかったです。私が履修していた5つの授業のうち、4つの授業はたまたま日本人の留学生も履修していました。授業中はお互いがいろんな人と話す機会を作れるよう、少し離れて着席してい

ましたが、課題のことなどわからないことがあればお互いに相談が出来たので心強かったです。現地学生のクラスメイトも、自分から話しかけたり、私の友人の友人、というつながりなどで向こうから話しかけてくれることもありました。シャイな学生もいて、誰でも話しかけてくれるというわけではありませんでしたが、何か尋ねればとても親切に教えてくれたり、そこから仲良くしてくれる子もいました。学生も、クラスの規模が小さいおかげで、留学生でもしっかり気にかけてくれたのだと思います。

◆ 履修科目

• Special Topics: Street Jazz(DAN213)

Chatham に決めた理由の一つでもある、体育分野の授業が豊富なことから、座学だけでなく、リフレッシュできるような体を動かすクラスを受けたいと考えていました。幼少期からクラシックバレエを習っていたことから Special Topics: Classic Ballet を受けたかったのですが、定員不足でなくなってしまい、同じ Special Topics の、Choreography か Street Jazz をお勧めされたので Jazz を選びました。担当教員の方は他の初級向けのダンスも担当されていてとてもパワフルでダンス経験も豊富な方なのでとても楽しい授業でした。数週間で 1 曲の 1~2 分程度の振付を覚えて練習する授業です。

• Media and Society(COM106)

同女で履修していたゼミがマスメディア関係なので、ゼミ分野の単位読替ができるように、それに関連した授業を探していました。シラバスなどを調べて、クラスのレベルが 100 (主に 1、2 年生向けの Introduction のクラス) のものの中からいくつかメディア系の候補を探して、国際課の方と履修について相談できる機会があったのでその時にこの授業は難易度も高すぎずちょうどいいと思う、と勧められたので履修を決めました。マスメディアの歴史から人種、性別などの特定のトピックがメディアでどう描かれているか、などの現代の問題を習いました。主にインターネットの資料を使って、予習が前提で授業が進み、授業内で学生の意見を聞く時間もありました。

• General Psychology(PSY101)

個人的な関心で、同女でも心理学を履修したことがありましたが、海外の大学ではどう習うのかが気になっていたこと、日本とは違う情報が得られるのではないかという期待から履修を決めました。またこの授業は Introduction で基礎から学べるので、自分の興味あることをしっかり学べそうで、難易度もちょうどいいだろう、ということで国際課の方からも勧められ履修しました。主に、先生が作ったパワーポイントに沿って、先生が説明をしてくれる授業形式でした。

• First Year Writing(ENG105)

私自身、英語の Writing に対する苦手意識が強かったので、少しでも練習を重ねて改善させたいと思い、英語の Academic なことを学べる授業を探していました。Writing の授業はいくつかありましたが、正規授業はより高度で専門的な Writing のクラスが多かったので、新入生の多くが大学のレポートを書くためなどに履修する、というこのクラスを受講しま

した。授業名からも自分の学力に合っていそうだと思います。国際課の方に相談した際も、このクラスの担当の先生が留学生の対応に慣れているからいいと思う、と仰っていたこともあり履修を決めました。学期の前半は、1 冊の本を読みながら、表現力を学びました。後半は文章をどうはじめれば読む人の目を引くか、など、様々なトピックや課題に沿って学びました。少人数クラスの 5 人ほどで、小さな教室で一つの机を囲み受講しました。

・ **American Culture and Cinema(ELI190)**

同女の先輩の留学体験記を見て、気になっていたこと、正規授業だけではしんどくなりそうだからまだレベルの高くないクラスを 1 つは取っておきたかったこと、担当の先生が一学期目にも受講していた大好きな先生と知ったこと、の 3 点の理由から履修を決めました。留学生向けのクラスで、全員の交換留学生が受講していて 15 人ほどのクラスでした。様々な年代、ジャンルの映画からアメリカ文化や映画の撮影や効果の技術、単語を学びました。学期中、様々な年代、ジャンルの、なかなか自分では選ばないような映画をたくさんみることが出来るのでとても楽しかったです。

◆ **授業、レポート、定期試験**

・ **Special Topics: Street Jazz(DAN213)**

全員女子学生で 10 人ほどの小規模クラスで 1 時間半ほどの授業です。先生が用意した 1 分半ほどの曲と振付を 1 曲に 3 週間ほどかけて教わり繰り返し練習します。1 つ 1 つの振付の発表は特になかったです。このクラスは上級クラスだったこともあってか、ダンスやバレエ経験者が多く、みんな振り覚えが速くテンポよく振付が進んでいった印象です。学期後半にダンスショーを映像で見て、それに関する要約と感想を Word ファイル最低 1 ページ書く課題がありました。期末のテストの代わりに、最終授業の日に、2 分半以上の曲に自分で振付をしたものを一人ずつみんなの前で発表しました。他の初級クラスは複数人でグループになり振付・発表だったようですが、このクラスでは選曲、振付、発表、全て一人だったのでとても難しかったです。最終課題の発表は緊張で上手くできませんでしたが、先生もクラスメイトも褒めてくれたほど雰囲気の良いクラスでとても楽しかったです。

・ **Media and Society(COM106)**

全体で 20 人弱のクラスでした。はじめはコロナの影響によりオンライン受講で、パワーポイントや資料を基に、マスメディアの歴史を新聞や電通などから学びます。対面授業になってからはパワーポイントより先生の板書がメインで、必要と思った箇所は各々パソコンやノートにメモする形式でした。事前に先生から予習資料がオンライン上で公開され、それを読んでくることを前提に授業が進みます。レベル 100 なので 1, 2 年生が多いと思いますが、学生みんな積極的に意見を述べていました。中間テスト、期末テストともに、授業で学んだことから出題されます。中間テストは、メディアの歴史から出て締切日までに与えられた Word ファイルに書き込み提出するスタイルでした。期末テストは、最近のメディアの理論などからで教室で各々のパソコン上で、中間と同じく Word ファイルに書き込み提出しました。テストと別に期末は 2 人組でのプレゼンテーションがありました。メディアの理論

や現代のメディアの問題などについて、どんな対象にどんな教え方をするかを考えそれを発表しました。ペアの人に留学生だということをはじめに伝えたら、積極的にサポートしてくださり、とても優しくかったです。先生もメールでも対面でも質問すれば快く答えてくださるとても優しい方でした。

・ **General Psychology(PSY101)**

30 人ほどの学生が受講していたと思います。同じ先生で夜に 3 時間弱のクラスを週 1 回のものもありましたが、私は週 3 回 1 時間のクラスを受講していました。先生が作ったパワーポイントスライドをもとに進みます。私は単語の意味や、先生の話のメモを書き込みやすいようにコピーしていました。1 年生が主に受講するような基礎クラスなので、留学生でも受けやすいと思います。心理学の総合的な知識の基礎を学べます。数パート進むごとにまとめテストのような小テストとあるトピックに関するペーパーの提出がありました。まとめてテストするよりは知識が定着しやすかったです。小テストとペーパー提出が主で中間や期末も特別テストがあたりはしなかったです。たまに意見のある学生が発言していましたが、ほとんど先生の講義でした。メール等で質問などを送ると親切に返信してくださる優しい先生でした。

・ **First Year Writing(ENG105)**

クラスメイト 5 人ほどのとても小規模なクラスです。ほとんどの 1 年生が受講するようで周りは 1 年生が多かったです。学期前半は 1 冊の本を指定日までに各自読んできて、クラス内で話の展開や気になる表現についての意見を出し合いました。Reading が苦手だったので指定日までに何章も読んでおかなければいけないのが少し辛かったです。本が終わると、後半は具体的なペーパーの書き方やワードの使い方、要約や批評の書き方などの練習をしました。本を読み進めることに加え、授業内で進めた練習の残りなどの宿題がありました。そのほかにはレポートやテストはありませんでした。その分出席することが重要視されていました。先生が留学生に慣れていて、日本からの留学生だというと「同志社 (同女) ? 以前も何人か担当したことがあるよ」とも仰っていました。小規模だからこそ私にも発言する機会が回ってきたり、クラスメイトもしっかり話を聞いてくれたりしたのがよかったです。

・ **American Culture and Cinema(ELI190)**

留学生向けのクラスで、交換留学生全員が受講していました。様々なジャンル、年代の映画をいくつも扱いました。映画を見て、そこから単語や文化、映画のジャンル、撮影スキルなどについても学びました。有名な作品だけでなく、今まで知らなかったような、自分では選ばなさそうな映画を見ることができて楽しかったです。正規授業だけでなく ELP クラスも受けることで気楽に受けられる授業があり息抜きになっていました。映画を見る前に単語の予習などの宿題、自分の推薦映画についてのプレゼンなどがありました。いくつか映画をみるごとに単語や要約などの小テスト、小テストをさらにまとめた中間テストと期末テストがありました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

課外活動、ボランティア活動は参加していません。

クラブ活動は、1学期目はウクレレクラブ、2学期目はチアリーディング部に所属していました。現地学生と交流できる機会を求めて日本人留学生の友人と一緒に、未経験でしたがウクレレクラブに入りました。とても小規模で多くて5人、少ないと3人ほどしかいませんでした。あまり会話が多くなかったですが、現地学生の会話を聞くことができたり、時々一緒に話もできたりと、ウクレレにも挑戦できたので勉強のリフレッシュになっていました。週1回1時間の練習でウクレレは貸出してくれました。2学期目はダンスのクラスメイトに声をかけていただき、チアリーディング部に入部しました。チアリーディングも初挑戦でしたが、クラシックバレエの経験が活かせるかなと思い、勇気を出して入ってみました。こちらは私以外に留学生はおらず、知り合いがいなかったので初めはとても緊張もしていましたし、心細かったです。大会出場を目指すような厳しいクラブではなく、大学のバスケット部の応援を主にして、自分たちも楽しくダンスや応援をするチームです。未経験者も募集していたようで、私以外にも6人ほどの未経験の1年生が同時期に入部していました。男女バスケット部の試合を間近で見られるのもとても楽しかったです。チームの雰囲気も良く、コーチも優しくかったです。シーズン終了後はみんなでピザを食べたりもしました。勇気を出して挑戦してみて本当に良かったと思います。

⑧ 現地での住まい

私は語学研修期間、正規科目履修期間、ずっと同じ部屋に住んでいました。寮は特に私が指定はしておらず大学から振り分けられました。コロナ禍明けで久しぶりに学生が寮に戻ってくるタイミングだったようで、しばらく使われていなかったからか埃が溜まっていたので入居してすぐ自分で掃除しました。お風呂の塗装がはがれていたので大学のレジデンスに修理をお願いしましたが、数週間しても来ず、少し待ってから急に来て直してくれたこともありました。寮の建物はどこも古く、何度か修理されたような跡がある箇所もありました。食事はミールプランを主に使い、食堂やカフェで食べたり、ミールプランの残りを確認できるアプリを使ってブリトーやサンドウィッチを食堂やカフェにオンライン注文していました。たまに自炊もしていたので1学期目はミールプランを使いきれませんでした。2学期目からはより食堂などミールプランを使うようにしていました。食堂では日替わりでメキシカンやアメリカンが中心のメニューです。サラダバー、ドリンクバー、アイスバーもありました。

寮からは階段を数十段上ったらキャンパスに行けます。一番近い校舎へは徒歩5分ほどで着きます。少し遠い校舎へは徒歩15分ほどかかります。

⑨ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は旅行に行っていました。キャンパスから空港まではバスで1時間ほどで行け、ピッツバーグのダウンタウンへもバス1本で行けるのでとても好立地でした。旅行は、10月

末の大学の秋休み、11 月の Thanksgiving Holiday、12 月の冬休み、3 月の早めの春休みでそれぞれ、フロリダのディズニー、シカゴ、ロサンゼルス、ニューヨーク、ボストンへ行きました。休暇中、大学のジムが開いているときはジムに行ったり、近所を散歩して公園や美術館に行ったりもしていました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

インターンなどには一切参加していません。SPI の参考書を持参していましたが、余裕がなく少ししか手を付けられませんでした。少しずつ自己分析や業界研究などは進めたり、オンライン説明会などに参加していました。3 月に就活が解禁してから数社にエントリーしました。今はオンライン面接をしている会社も多いので、オンラインで面接を受けたこともあります。時差があったので夜中になってしまうこともありましたが、図書館の自習室を借りたり、寮の自分の部屋で面接を受けました。本格的に始動したのは帰国後です。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

初めての海外で、何もかもが新鮮だったので、今までと全く違う環境で生活できることが何よりも楽しかったです。天気がいい日に一人で散歩したり、歩いてスーパーマーケットに行ったりしてリフレッシュするのが楽しかったです。一番留学してよかった、と思えたことは世界中に友達、知り合いが出来たことです。アメリカ人はもちろん、一人目のルームメイトはルーマニア人でしたし、留学生仲間たちはアジアやヨーロッパなど様々な国から来た人と出会えました。その出会いがきっかけで他国の文化について知れたり、日本について改めて興味を持つきっかけにもなったりと、良い影響もありました。この 9 ヶ月間で世界各地から来たたくさんの人と交流が出来たことが留学の醍醐味でもあり本当に貴重な機会だったと思います。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

日本の便利さや清潔感、慣れ親しんだ食事が恋しくなり辛く感じることもありましたが、日本のようにコンビニがたくさんないので食材や飲み物が欲しければ徒歩 30 分ほどかけてスーパーへ行かなければいけませんでした。旅行先でも水を買うのにも少し歩かなければいけなかったりもして、日本の便利さが恋しくなりました。寮は長年使われているので自分が日本で住んでいたような清潔感のある部屋とは限らないので、始めはとても戸惑いましたし、心からリラックスできるまでは少し時間がかかりました。食事も、食堂の食事が口に合わないものもあり、本物の日本食がとても恋しくなった時期もありました。なので、高価でしたがスーパーで材料を買いお米を炊いたりお味噌汁を作ったりもしていました。

人間関係ではお互いが第二言語を話す留学生のクラスメイトと、育ってきた文化背景も違うので初めは相手の行動が理解できず、距離を縮められませんでした。積極的に話しかけて、お互いの心を開くことができるまで 3 カ月ほどかかりましたが、その後はとても仲良くなりました。

また、日本人との関係構築でも少し苦労しました。日本人は4,5人いたので、せっかく英語を学びに来たのに日本人だけで固まってしまうのは避けたかったのですが、語学研修では半分以上が日本人という状況もあったり、どうしても日本人同士でないと話が通じないこともあったりして距離感が難しかったです。また、たまたま同じ時期に同じ留学先だっただけで日本人全員と相性がいいわけでもないのに、少し衝突があり辛い時期もありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

アメリカ人は基本、日本と比べると接客などが淡泊です。食堂で働いている人も、気分屋だったり、スマホでゲームをしながら、という人もいました。私の英語が拙く上手く伝わらなかったときは、正直に困った顔をされたり、少し強めに聞き返されたりしたときは落ち込んだり怖いと感じたこともありましたが、後半は慣れました。アメリカは車社会なのでバスでなければ行けなかったり、バスを降りてからすごく歩かなければ行けなかったりと不便な場所もあり、初めはとても戸惑いました。

アメリカ人は土足で部屋に入る、と聞いていましたが、その点はルームメイトに事前に室内では靴を脱いでほしい、など伝えると応じてくれました。ですが、日本ほど掃除をする習慣がないのか、何かをこぼしてもしばらくそのままだったり、水場の掃除もあまりしていなかった印象です。他の日本人の友人はルームメイトが食器の洗い物がたまっても全く洗ってくれず困っている人もいました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点：小規模で同女との協定も長いため、留学生対応に慣れていて手厚くサポートをしてくれたり、先生に質問をしやすかったです。スポーツ推薦で入学している学生も多い分、ジムが充実していて、勉強のリフレッシュや運動不足解消にジムを利用できたのもよかったですと思います。学生証があればバスに無料で乗れたり、バスもよく通っているのでショッピングモールやダウンタウン、空港に行きやすい好立地でした。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンまたはタブレットは絶対あった方がいいと思います。図書館で大学のパソコンを使える部屋もありますが、予習課題や授業で使う資料をオンラインで配布されたりするので自分のパソコン、またはタブレットがあった方が便利だと思います。基本的にタオルや服などはターゲット（現地のスーパー）などで入手できるので、捨てるでもいい物で最低限だけ持っていけば十分だと思います。私は敏感肌なので、直接肌に触れるもの（下着、特に生理用品）は自分の使い慣れたものを持っていきました。生理用品は余るくらい多めに持って行って正解でした。胃薬や、生理痛用の薬、葛根湯は急に体調が崩したときなどに重宝しました。レトルトのカレーやお味噌汁、袋めん、などは日本食が恋しくなった時にとても重宝しました。味噌やカップ・袋麺、醤油や出汁の素などの調味料などは現地のスーパーでも入手可能です。（インスタントのお味噌汁は現地ではなかったので、特に持参することをおすす

めします！）洗濯機の威力が少し強かったり、乾燥機で服が少し縮むことがあるので、目の細かい洗濯ネットを多めに持っていくと便利です。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

初めは自分の英語に自信がなく、Speakingにも慣れておらず、話すことにとても緊張していました。アメリカ人の会話もスピードが速く聞き取るのが難しかったです。ですが、留学を通じて、話すことにも慣れて、以前よりも自分の英語に自信を持って、アメリカ人の英語も聞き取れるくらいリスニング力が伸びました。英語音声、字幕でYouTubeやNetflixを見ることへの抵抗もなくなりました。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

まずは一般企業、できれば英語を使う職業に就きたいと思い就活をしています。30歳までにワーキングホリデーを利用したりなど、アメリカ以外の国でも生活してみたいとも考えています。この留学をとおして、国際的な文化などにより興味を持ったり、学んだりしたので、将来も様々な国の方と出会えるような仕事をしていけたらいいなと考えています。

V. 写真



チアリーディング部で学期末に小さなショーケースイベントをした時の写真です。このユニフォームは貸し出してくれました。



各寮に洗濯機、乾燥機がついています。インターネットから1時間ごとに予約をしてから利用しますが、たまに前の人が終わっていても取り出していなくて待たなくてはいけないこともありました。洗濯機が強かったり、乾燥で服が少し縮むことがあるので目の細かい洗濯ネットを多めに持参することをお勧めします。



年にもよるようですが、私がいた頃は雪がたくさん積もりました。



大学のブックストアには、スウェット上下、Tシャツ、文房具など大学オリジナルのグッズがたくさん売っています。ほとんどの学生がこれらのTシャツやスウェットを持っていました。



国際課が開催していたイベントです。交換留学生がそれぞれの国についてのボードを作ってブースに立って少し説明したりするイベントでした。どんなイベントにも大体フリーフードのケータリングがついていたので、それが楽しみで、イベントにはよく参加していました。

I. K. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私が留学についてぼんやり考え始めたのは、高校時代の時です。上手く行っていた英語にまずき始めた高校生の時、高校の恩師やお世話になった塾の講師のサポートにより英語を初めてちゃんと勉強して、その楽しさに気づきました。そこから今後英語を深めたいと志すようになり、語学の向上だけではなく英語を通じて今だからできることを知らない場所で経験したいと思い、留学を志すようになりました。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

IELTS の対策に向けて勉強はあまり出来ていないのですが、CAMBRIDGE から出ている公式の教材だけでも十分だと思います。設問を説きながらコツを掴めると傾向に慣れてくると思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間

コロナ禍で留学が危ぶまれていたので、本腰を入れてそのための語学勉強が出来ていなかったのが事実です。急遽渡航が決まったので、ワクチン接種やビザ申請手続きなど全てが忙しかったです。

④ 現地到着後

空港からは現地の国際課担当の方の車で大学へ向かいました。空港から大学は少し遠い距離です。オリエンテーションの約1週間前に到着したので、少しゆっくり出来たように思います。オリエンテーションには、語学学校に行く留学生・他国からの正規学生として入学する学生と参加します。学生寮に住む場合、枕・掛け布団・カバー類などしか用意されていません。勉強機のライトなどそのような備品も無いので現地で購入することになりました。基本部屋の中では部屋用のサンダルやスリッパで過ごす学生が多かったように思います。もしスーツケースに余裕があるなら現地で捨てて帰るということを想定して安いものを用意してもいいと思います。

⑤ 語学研修期間

8月下旬から12月上旬にかけてあります。基本的に月～木の授業で月水と火木がセットで同じ授業を受けるような形でした。午前と午後で授業が分かれていて、それぞれ約2時間弱の時間で休憩が挟まれるようなスタイルでした。テストでクラス分けが行われ、そこで授業やメンバー、教材が決まります。教材は自分で用意するようになるのでアマゾンなどで購入しました。非常に価格が高いので私は品を使用していましたが全く支障はなかったです。商品状態を詳しく見てから購入することをお勧めします。語学学校に行っている学生は、現地の大学生よりもテスト期間も含めて1週間早く授業が終わります。

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学学校は同じ建物の同じ階(地下)で行われます。空調設備が悪く、冬は寒かったです。その階に国際課もあります。その建物の一階では、学生が正規授業を受けていました。

◆ **授業内容、課題、試験**

・ **ELI 104: Academic Composition**

Writing の授業でした。もしかすると日本でも学んだことのあるものもあるかもしれませんが、個人的にはよりアカデミックで難しく感じました。1 セメスターでいくつかのエッセイを仕上げることになるかと思います。

・ **ELI 108: Academic Communication**

Listening と Speaking の授業で、テキストに沿って授業が進められる形でした。テストはテキストに出てきた語彙や最後に 1:1 でのスピーキングテストがありました。

・ **ELI 191: US Culture I**

テキストに沿って様々なトピックからアメリカの理解を深めました。語学学校の学生達だけではなく、大学に留学してきた学生達も参加しています。テスト範囲は広がったですが、準備をすれば大丈夫です。

・ **ELI 122: American Literature**

講師が非常に人柄のいい方で、授業が楽しかったです。アメリカの短編ストーリーや小説をいくつか読みました。少し昔のものや、現代の小説を読みました。語学学校生は正直言うと、そこまで忙しくは無いので読む時間は充分にあるのですが、毎回の小説の課題の量は少なくなかったのが後回しにすると大変です。現代の小説を読んだ後には、それらの映画を見ることでさらに作品に対する理解を深めることもできました。テストはガイドが配られるので、その通りに準備をすると問題は全く無いです。

⑥ **正規科目履修期間**

◆ **大学の施設・環境について**

語学学校で使用した建物だけに限らず、授業によって教室の幅が広がります。

◆ **履修科目**

必ず 1 つは語学学校の授業を取る必要があります。

◆ **授業、レポート、定期試験**

・ **ELP103: Advanced Grammar**

講師が用意したオリジナルのテキストを使用しました。試験は短いエッセイを書きました。

・ **ELI190: American Culture & Cinema**

様々なジャンルの映画を何本も観ました。私自身観る映画のジャンルが偏っているので、新たな発見があり面白かったです。観る映画は昔の作品が多いのですが、どれもアメリカの名作ばかりでこの機会が無かったら観ていなかっただろうなと思います。映画の背景やカメラワークの知識など多角的に映画の理解が深められるのが、この授業の特徴だと思います。

・ **PSY101: General Psychology**

心理学に興味があったので履修しました。心理学はただでさえ 1 つの言語のようだと思う

れるように知らない言葉が出てくるので、履修する前に教授にメールで問い合わせしてから決めました。初心者でも分かりやすくパワーポイントが作成されているので、分からない言葉は事前に調べてから参加することが出来たので、その点については心配する必要がないかと思われまます。この授業はレクチャースタイルなので双方向の授業ではないです。オンラインでのテストが数回、エッセイの提出が数回ありましたが、難しいものではありませんでした。

・ **COM106: Media & Society**

アメリカの立場から社会について学びたいと思い履修しました。メディアの歴史から、社会問題まで幅広く触れることが出来ました。この授業はエッセイが大変でした。特にペアワークがあるので、その相性が良くないと負担になると思います。私のペアの方は、ギリギリになって物事を行うタイプだったので、現地の方よりも時間を要する私はかなり追われて苦労しました。最後にはファイナルプロジェクトの集大成として簡単にペアでプレゼンを行いました。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

International club がパンデミックぶりに再開するとのことでしたが、結局一度しかなかったのが残念でした…。

⑧ **現地での住まい**

寮

寮は大学の近くにありますが、大学は一般道路に面しておらず上の方にあります。大学敷地内までの階段が大変です。ダイニングホールも遠いです。エアコンは設置されていないので、夏は非常に暑いです。到着したのが 8 月中旬くらいだったので扇風機を購入するか迷いましたが、温度が下がるのがもう少しとのことだったので乗り切りました。ご飯は **Spring semester** になるとクオリティーが上がったと聞きましたが、あまり期待しない方がいいかもしれません。現地の学生でさえあまり良いと思っていない印象でした。ミールプランを使い終えることは非常に困難です！オーダーで注文できる食事もあります。（これに気付いたのはかなり後です…。）惜しみなくミールプランを消費した方がいいです。

ホームステイ

ホームステイに切り替えました。朝夜の食事付きのプランにしました。正直なところ、寮に住むのと値段がそこまで変わらないように思います。私のホームステイ先は、朝は各自、夜は家族一緒にという感じでした。衛生面は良くなって、初めは驚きでしたが、異文化の違い、基準の違いを肌で感じる事ができたように思います。

⑨ **長期休暇の過ごし方**

旅行をすることが多かったです。特に冬休み期間中はずっと旅行をしていました。というのも、次の学期にホームステイをすることになっていたのが寮に滞在（荷物を置いておく）ことも出来ず、退寮せざるを得なかったということもあります。冬休み期間からホームステイ先に滞在することも出来たのですが、折角のアメリカと言うこともあったため旅行をする

ことにしました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

現地で知り合った学外の友人と様々な思い出を作れたことです。ロードトリップでカナダ側からナイアガラの滝を観に行ったり、私の好きなアーティストのコンサートへ行ったりもしました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

長距離バスで警察沙汰を目の前にした時や、知らされないままバスが欠便になって治安の悪い場所に一人だった時、一人で旅行をしていた際にあり得ないくらいに飛行機の便が遅延を繰り返された時など、普段から最悪な状況を想定している私でも、想定外のことが起こった時にさすがに心細くなりました。しかしサバイバル精神は養われたと思っています。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

カルチャーショックは小さいことでは様々ありますが、友人や家族との時間をより大切にしている点は日本とは違うなと感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点：日本語の授業が開講されているので、日本に興味を持っている学生がいて関係が構築しやすかったです。イベントも沢山あるので、友人を作りやすい環境にあると思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必須です。洗濯ネット、折り畳み傘、水筒、ばらまきのお土産など。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

自分自身では分かりませんが、友人と二人で一緒に出かけてコミュニケーションを取れるようになったことは客観的に観ると大きな成長ではないかなと思っています。一人で国内旅行をしていたこともあまり想像はしていませんでした。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

国外で長期間過ごすことができる経験はこの先いつあるか分かりません。13時間も離れた場所にまた会いたいと思えるお世話になった知り合い、友人、それだけでなく現地で知り合ったアジア圏の友人などグローバルな繋がりが広がりました。留学という縁、人の縁など自分に訪れている縁を大切に、時間を大切に過ごしてください。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

仕事上で英語が使用できたら素敵だなと思っている程度で、そこまでビジネスでは考える

までには今は至っていません。しかし、プライベートで多くの海外の人たちと触れ合っ
て学びを得たいと思っています！

V. 写真



N. N. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は小学生のころから、ぼんやりと留学したいと思っていましたが、中高の間は行きたいと思ったり行きたくないと思ったり、しっかりとした気持ちはありませんでした。留学しようと思った1つ目の理由は、中学の修学旅行でニュージーランドに行きましたが、その時に全然話せず、知っている単語でもうまく単語を使いこなせず悔しく思いました。バディの子は、とても優しく私ができるようにあの手この手を使って説明しようとしてくれましたが、私もわからないもどかしさと相手の子もいろいろ考えて説明してくれ、申し訳なく思いました。また、海外旅行に行ったときに、父は英語を話せますが母は話せないの、いろいろな国の人と話せるのと話せないのでは視野の広がり方が違うなと思いました。このようなときに、私がもう少し英語が理解できればなと思いました。2つ目の理由は、私は家から大学が近く一人暮らしをすることもなく、家事すべて親に頼りっきりで自立しなければならなかったと思いました。私は、周りの同い年の子と比べても、家事においてのスキルがとても低く全く何もしていなかったの、自立するチャンスだと思いました。コロナ渦で始まった大学生活で全てが制限され、大学に行くこともできなかつた中で、新しい体験をするのには留学が最適だと思いました。異文化の中で適応しながら生活し、新しい環境に飛び込みたい！という好奇心も大きかったです。普段はどちらかという慎重に考えて行動するタイプですが、留学に関しては割と勢いで決断したような気がします。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

1回生の春学期は大学に行っておらず、すべてがオンライン授業だったので、留学に行きたいなという気持ちだけで国際課にも行かず、出だしはとても遅かったと思います。秋学期になって徐々に通学するようになり、同じクラスに留学に行きたいという友達があったので、その子と一緒に準備を進めていきました。留学をしたいという思いだけで、同女の留学システムを理解していなかったの、とりあえず国際課に行きました。協定留学とセメスター留学の違いや、金額などを何回も聞きに行きました。国際課の方は優しく丁寧に説明してくださるので、絶対に聞きに行って気になる点や不安なことをなくしてから出願したほうがいいと思います。私は、IELTSで提出しようと思っていたので、同じクラスの友達とIELTSの勉強をしていました。IELTSは4技能全てのテストで全てを勉強するのは大変でした。スピーキングは友達とも練習しましたが、Speakingのクラスの先生に相談して、その先生から紹介して下さった本学の先生に、週に1回時間を取ってもらい、練習していました。Writingもその先生に添削してもらったり、友達が書いたものを読みあつたりすることが多かったです。ListeningとReadingも一人で勉強することもありましたが、友達と一緒にやるが多かったです。一緒に時間を計りながらやることで、さぼることはないの留学仲間を見つ

けて一緒にやるといいと思います。私は解き方の方法が書いてあるものと、模試形式の参考書を買って、それを利用して解いて自分が解き終わると友達のを貸してもらっていました。私が志望する大学への出願は、IELTS 5.5 を求められていました。1 回目に受けたときは 5.0 しか取れず、その後、とても焦ったので今まで以上に IELTS の勉強をしました。最終的には、出願選考の開始間際で、5.5 を取得することができました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定したときはとても嬉しかったですが、コロナの関係で絶対に行けないと思っていました。なので、決まってから予防接種以外は特に何もすることなく、留学を延期するか諦めるかをずっと悩んでいました。予防接種もたくさん種類があるので、できる病院を大学病院や近所の病院などでいろいろ聞いて、私は小さいころからのかかりつけ医に全てお願いしました。そんな中、渡航する 1 か月半前に、外務省の危険レベルが 3 であっても留学を許可するというメールをいただきました。すぐに親と一緒に留学に行く友達に連絡をして、喜び合いました。ですが、そこからは怒涛の日々でした。すぐに、コロナワクチンの予約やビザの予約をしました。ビザの予約をするのにとても苦戦しましたが、大阪のアメリカ領事館に行って面接するのはとても簡単な質問しかされなかったのが良かったです。私は、90L と 60L のスーツケースの 2 つで行きました。結構パンパンになって閉めるのに苦労しました。日本食もたくさん持っていきましたが、日本からも送ってもらえるのであまり持って行かなくても大丈夫だと思います。私たちは 4 人で一緒に行く予定だったので 4 人同じ航空券を JTB で往復券を予約しました。帰りの便の予約変更もできました。

④ 現地到着後

到着後は、チャタム大学の国際課の方が空港から大学内の寮まで、車で迎えに来てくださいました。空港から大学までは、1 時間弱で着いたと思います。コロナの関係もありプログラムが始まる約 2 週間前に寮に着いたので、寮の周りのスーパーに日用品を買い出しに行ったり、ご飯を食べに行ったりしていました。オリエンテーションでは、他の国のいろいろな人に会いました。プレイスメントテストがあり、このテストで語学研修のクラス分けが決められました。

語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

校舎までは階段をたくさん上っていかないといけないので、大変でした。語学研修の授業を受ける教室は、地下にあってどの教科も全て同じ建物の地下で受けました。暖房はきいていたので、冬は暖かかったです。

◆ 授業内容、課題、試験

・ US Culture

アメリカ文化についての学ぶクラスでした。このクラス以外は、レベル分けされた 2 つのクラスで分かれて授業を受けていましたが、このクラスは合同で受けていました。アメリカの食文化、エチケットやマナーに関してのテキストを購入し、毎週 1 つのトピックを取り上

げ、それに沿って授業を進めていきました。テキスト内の文章数ページを読んで、そのあとの問題に答えるのが課題でした。そしてその次の授業でグループごとにディスカッションをしたり、クイズに答えたりしました。

・ **Academic Composition**

ライティングのクラスで、のライティングを利用して、エッセイの書き方を学んでいきました。課題ものライティングを使って出されていました。リサーチペーパーを後半に書きました。これは自分の意見に合う論文をいくつか探してきて、それを読んでまとめ、参考文献も正式な形で書くものでした。試験は IELTS のライティング 1 と 2 を時間以内に書き上げるというものでした。

・ **Academic Communication**

主にリスニングのクラスでした。テキストを使ってリスニングをしてそのトピックに関して、グループでディスカッションをしました。小テストのような形で、内容確認や単語テストがありました。課題は、その週にあった出来事を 1 分間で話して投稿するというものもありました。最後のテストはプレゼンで、パワーポイントを使って自分がアメリカで経験したことや、文化の違いなどを発表しました。

・ **American Literature**

アメリカの本について学びました。課題は主にその本を前もって読むというものでしたが量が結構多かったのでもしんどい週もありました。授業内ではその本に関してどう思うか、内容を深掘りするなどしていました。また本についてのジャンルや誰の視点から書かれたものかなどすべての本に共通するような内容も学びました。

⑤ **正規科目履修期間**

◆ **大学の施設・環境について**

私の履修していたクラスは、語学研修の時と全て同じ建物で授業が行われ、階が違うだけでした。

◆ **履修科目**

・ **Principles of Microeconomics**

週に 3 回の授業でした。経済学に興味を持っていたので履修しました。授業では経済学の基礎を学びました。

・ **American Culture and Cinema**

週に 2 回の授業でした。このクラスは、語学研修の時の先生が担当されていて、その時の授業が面白かったので履修しました。映画を見てその映画についてディスカッションをしました。

・ **Child Development: Birth through Grade 4**

週に 2 回の授業でした。子どもに興味があったのでこの授業を履修しました。子どもの成長について学んでいく科目です。

・ **Information System and Operations**

週に 3 回の授業でした。パソコンや機械に関する授業で同女ではとれなさそうだったので履修しました。

◆ 授業、レポート、定期試験

・ Principles of Microeconomics

月水金の週 3 回で 1 回の授業は 50 分でした。ミクロ経済学の基礎を学びました。日本語で聞いてもわからないような経済学の単語が出てきて、とても大変でしたがグラフなどの問題はグラフが読み解けると解ける問題なのでスムーズにできるものもありました。現地の友達が授業で分からなかったところを質問すると教えてくれたり、わかりやすい YouTube のチャンネルを教えてくれたりしたので、ついていけました。レポートはなくテストは 3 回あり対面式でした。

・ American Culture and Cinema

このクラスは、留学生向けのクラスなので友達を作りやすくアットホームな授業でした。授業では映画を見てそれについてディスカッションをしたり、時代背景を考えたりするものでした。映画のジャンルやカメラアングルについても学びました。自分の好きな映画について、パワーポイントを使ってプレゼンする時間もありました。テストは 2 回あり、授業で見た映画の単語テストや、誰が言ったセリフかななどのテストがありました。

・ Child Development: Birth through Grade 4

火曜日と木曜日にありましたが、火曜日はオンデマンドだったので、対面なのは週に 1 回でした。一度レポートのような形で教科書に出てきた教育学者の中から共感する人を一人選んで、自分が共感したことや自分の考えを 1 ページにまとめるといったものがありました。基本的には、火曜日に見た映像に関するトピックを木曜日にディスカッションするというものでした。はじめは、グループごとに分かれてディスカッションしてグループで出た意見を全体で発表することが多かったです。期末テストはプレゼンでグループプレゼンでした。3 人か 4 人グループに分けられて発表する形式でした。

・ Information System and Operations

週に 3 回ありましたが 1 回はオンデマンドでした。この授業はパソコンの中の仕組みやデータに関する授業でした。一方的に教授が話すことが多く、ディスカッションなどはあまりなかったです。ほとんど週に 1 回 10 問の小テストがあり、テストは対面テストが 2 回ありました。物の名前や機能を答えるものでした。期末テストは Web ページを作るものでした。ペアワークでもよかったので友達と一緒に作りましたが、とても時間がかかり大変でした。

⑥ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブ活動やボランティアには参加していませんでしたが、大学内で行われているイベントにはたくさん参加しました。

⑦ 現地での住まい

秋学期はチャタムアパートメントという寮に住んでいました。3 人部屋でキッチン、バスルーム、リビングルーム、ダブルルーム、シングルルームが一部屋にあり私はシングルルーム

を使ってルームメイトがダブルルームを一人で使っていました。寮にいた間は 150 回のミーリングプランがあったので、ほとんど食堂で食べていました。春学期はホームステイにしました。大学からはバスに 1 本乗り 15 分程度でつきました。ホストファミリーはとても優しくご飯もおいしかったです。ホストマザーがメキシコ出身だったのでいろいろな料理が出てきてとてもいい環境でした。家は地下から 3 階までありました。

⑧ 長期休暇の過ごし方

冬休みの 1 か月間は寮を出ないといけなかったのでずっと旅行をしていました。冬休み中にはシアトル、ロサンゼルス、マイアミ、ニューヨークに行きました。マイアミではディズニーワールドに行って Mary Baldwin University に留学していた友達と一緒に回りました。年越しはタイムズスクエアで過ごし、長時間待ちましたが思ったよりも大丈夫でした。

⑨ 留学期間中の就職活動の取り組み

特にしていませんでした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

いろいろな州に旅行に行ったことです。少し休みがあれば、友達と一緒に旅行したり、一人で旅行したりもしました。留学中の 9 か月間で約 10 つの州へ行きました。シカゴには一人で行きましたが、ランチの時にレストランで隣に座っていた全く知らない女性にディナーにも誘っていただき、その女性と家族と一緒に晩御飯も食べてとても面白い経験ができました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

渡航してすぐは、慣れないことの連続で、感情がぐちゃぐちゃになっていたことがありました。特にルームメイトともめていた時は、部屋に帰るのが憂鬱でした。ハロウィンパーティーで友達がカントリーロードを歌ったときに、家に帰りたくなくて泣いていた時は、自分でもびっくりしました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

あまりルールがなくみんな自由だと思いました。日本はルールが多いので、初めのほうは慣れなかったです。衛生面に関しても日本は優れていると改めて思いました。トイレもお風呂もきれいと思うことはあまりなかったです。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は治安がよかったことです。旅行でいろいろなところに行って気づきましたが、ピッツバーグはとても治安が良かったです。夜 12 時を過ぎてからホームステイ先に帰ることもありましたが、怖くありませんでした。悪かった点は冬が寒すぎることです。-18℃まで下がった日もあって通学が大変でした。吹雪が多くてイベントがなくなったり、友達と遊びに

行くことができなくなったりしたのは、残念でした。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは、課題をしたり授業を受けたりするのに毎日のように使っていたので、持って行ってよかったです。Wi-Fiはもちろんありましたが、弱いときもありました。私は日本から親に8回くらい物を送ってもらいました。なので、最低限のものがあればそれ以降は送ってもらえると思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力は、留学前よりも上がったと思います。現地の友達と話すとき、教科書では習わない言い回しやスラングなどがあるので、生きた英語を学べたと思います。留学前は潔癖症で、様々なものに対して好き嫌いがありました。そのような感じだと生きていけなかったため、「なんでもいいや精神」で生きていました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

とてもいい経験になると思うので迷ったなら留学したほうがいいと思います。留学中は完璧を求めずに柔軟に気楽にしたほうがいいと思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

いろいろなことにチャレンジし続けたいです。将来については明確なものはありませんが世界中の人と関われるような仕事について、たくさんの人の価値観を知りたいです。

V. 写真



バレンタインの前日の時のパーティーの写真です。カードゲームをしたり、お菓子を食べながらプレゼント交換したりしました。



イベントに参加してサイエンスセンターに行った時の写真です。写っているのはその時に友達になった人たちです。



友達の誕生日パーティーの時の写真です。誕生日だった友達の寮で行われました。誕生日だった友達は写っていませんが、一番右の友達が私の **Conversation partner** でした。



これは、イベントでピッツバーグのアイスホッケーチームのペンギンズを見に行った時のものです。大学主催のイベントだったので、無料で見に行けました。



帰国前にグランドキャニオンに行った時の写真です。
とても日焼けしましたが広大な土地に感動しました。

S. U. 英語英文学科・2 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

小さい頃から海外ドラマなどを見るのが好きで、海外への興味がありました。英文学科に入学したこともあり、英語を話せるようになりたいと思い、大学の間は何らかの形で留学ができればと考えていました。1 年生の後期に協定留学の募集を知り、単位を交換できることや 1 年間留学に行ける点に魅力を感じ、実際に応募することを考え始めました。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

IELTS の基準点を満たすための勉強をしました。IELTS の問題集を何度も解きました。大学にあった問題集を借りたり、様々な問題集を解くよう心掛けました。また、大学の IELTS 対策講座を受けました。オンラインで受けたのですが、効率の良い解き方や勉強法を学ぶことができたので、とても役に立ちました。また国際課の Chatroom を利用してスピーキング対策も行いました。英語を話す機会があまりなかったため、週 1 で会話練習をすることができ良かったです。

③ 留学決定から出発までの準備期間

コロナのため、渡航が決まったのが、1 ヶ月前でした。準備をする時間が少なく、大変でした。ビザの申請では必要な書類を揃えることや面接予約をすることに時間がかかったため、留学が決まり次第、早めに取り掛かることをお勧めします。授業やバイトで忙しかったため、語学の勉強はできていませんでした。

④ 現地到着後

空港からは、チャタム大学の国際課の方がバスで迎えに来てくださいました。空港から大学は車で約 1 時間ほどでした。大学に着いてからは寮のカギを渡して貰い、部屋に入りました。Wi-Fi の紙や大学のイベント紹介など重要な資料を到着した時に貰いました。大学が始まる前にコロナの陰性結果が必要だったため、大学の保健室でコロナのテストを受けました。オリエンテーションは大学の説明などをしてくださいましたが、この頃は英語があまり分からなかったので内容を詳しくは理解できていませんでした。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学研修先は地下にありました。毎日同じ部屋で授業を受けていました。パソコンがあり、授業で部屋のパソコンを使うこともよくありました。ELP の授業は 2 人の先生の授業を受けていました。

◆ 授業内容、課題、試験

Listening, Reading, Writing, Speaking, US culture の授業を受けていました。1 科目 2 時間で毎日 2 科目受けていました。Speaking の授業は大学の芝生で授業を行うなど、のんびりとした雰囲気でした。U.S culture という授業の宿題は 3-4 ページの Reading 課題が毎

回あり、内容も少し難しかったです。課題は基本的にはそこまで多い量ではありませんでした。試験は先生方が試験前にまとめプリントをくださり、それに従って勉強すればいい点数が取れるような内容でした。Writing は時間内に初見の題で Essay を書くというものでした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

ELP の時と同じ校舎と、Art design center という校舎で授業を受けていました。Art design center は坂を上った少し離れたところにありました。冬は暖房も効いていたので校内は寒くなく良かったです。

◆ 履修科目

・ General Psychology

心理学に興味があったため、この授業をとることにしました。心理学の入門的な内容のクラスで、心理学の基本について学びました。

・ Media and Society

チャタムのアドバイザーに勧められたこともあり、履修することになりました。メディアについて学ぶ内容でした。最初はメディアの歴史について学び、その後はメディアの社会への影響や論理についても学びました。

・ Chior

合唱のクラスです。過去の先輩が参加をして、楽しいと書いてあったのを見たのと、実技的な授業を受講してみたいと思いこの授業を取りました。週に2回、約2時間大学のチャペルで練習をします。最後には学校でコンサートをを行いました。

・ Advanced grammar

ELP の文法のクラスです。文法があまり得意ではないので履修することになりました。文法的に合っていない文章を直す練習など実践的なものでした。先生やクラスメイトも知り合いが多くアットホームな雰囲気でした。

・ American Cinema

ELP のクラスです。映画を見るのが好きのためこの授業を取りました。アメリカの映画を見て、クラスメイトで意見を交わす授業でした。様々なジャンルの映画を、授業を通して見る事が出来ました。

◆ 授業、レポート、定期試験

授業は講義形式で話を聞くスタイルが多かったです。英語のスピードが速いため、聞き取るのに苦労をしました。予習をしていないと専門的な単語もよく出るため、授業を理解するのは難しかったです。General psychology は月に1回、エッセイとクイズがあり、最後に全体のテストなどはありませんでした。Media and Society は日頃のエッセイの課題と Midterm, Final ごとにテストがありました。Essay は論文を引用するものや7枚以上書く必要があるものなど、とても大変でした。分からない時は、ELP の先生やアメリカ人の友

達に質問をしていました。最初の頃は一人で長い間悩みこんで、解決できないことが多かったのですが、分からない時は、周りに頼ることも大切だと感じました。また最後にはプレゼンテーションを行いました。Choir の授業は出席が評価内容でした。

⑥ クラブ、課外活動、ボランティア活動

ウクレレクラブに参加をしていました。週1で練習があり、前期はほとんど参加をしていました。またドラマクラブにも参加をしていました。学校で行われたハロウィンでのお化け屋敷のお化け役として参加をしました。ミーティングや前日準備などで、新たな知り合いをつくることが出来て、とてもいい思い出となりました。また後期にはミュージカルのカメラマン役として参加をしました。一人で参加をしたため不安でしたが、裏方の友達はみんなとても優しく、楽しく過ごすことができました。撮影時間は長かったですが、完成した作品をシアターで見た時は関わることができ良かったと改めて感じました。Martial arts club にも参加をしました。殆どの部員は初心者だったのですが、いきなり背負い投げの練習を始めたので、身の危険を感じて途中でやめました。アメリカで武道をするというのは中々面白い経験でした。クラブ活動は友達を作るきっかけにもなるのでぜひ積極的に参加をすることをお勧めします。

⑦ 現地での住まい

前期は Chatham apartment という大学の寮に住んでいました。アメリカ人のルームメイトと2人部屋を共有していました。ルームメイトとは比較的良い関係であったと思いますが、あまり会話をすることが出来なかったため、会話をする機会を増やしたいと思い、後期からホームステイに変更することにしました。ホームステイでは、2つ家庭に滞在しました。はじめのホームステイ先から学校までは、まずバス停まで20分ほど歩き、そこから15分バスに乗る必要がありました。1月は雪が毎日降っていたので、通学が大変でした。休みの日には植物園やレストランなどによく行きました。ホストファミリーと一緒に過ごす機会が多かったと思います。次の家に引っ越しをするときは、別れがたく、引っ越し後は軽くホームシックになりました。前のホストファミリーとは、引っ越した後も帰国前まで月に1回会い、ご飯に連れて行ってくれました。2つ目のホームステイ先から学校までは、20分ぐらいで通学できました。(バス停まで徒歩10分、そこからバスで10分)。ご飯などは家族別々で食べる仕組みだったため、寂しいと感じることもありました。9歳の子供とはよくゲームをして遊びました。課題がしんどい日もあったため、遊べない時もあったので少し申し訳なかったです。

⑧ 長期休暇の過ごし方

長期休みはアメリカ国内旅行をして過ごしました。

⑨ 留学期間中の就職活動の取り組み

特に何もしていませんでした。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

帰国前の2か月がとても楽しかったです。勉強が忙しい時もありましたが、残り少ない留学生活ということもあり、毎日のように大学でのイベントやスポーツ観戦、友達と出かけるなどしていました。野球観戦にはまり、5回ほど観に行きました。またアイスホッケーやアメリカンフットボールなどアメリカらしいスポーツを観戦できたことも楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

英語がなかなか話せなかったことに苦勞しました。最初の頃はお店で食べ物をオーダーするだけでも中々通じず、挫けることが多くありました。他にも正規授業が始まると授業の内容が聞き取れず、つらいこともありましたがそのうち慣れることができたので時間が経つのみだと感じました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

アメリカでは到着した頃から、屋外ではマスクをしなくていいという環境だったので驚きました。また帰国する前には、大学内でもマスクなしで大丈夫という方針になり、ほとんどの場所がマスクのない世界でした。そのため、イベントなども日本に比べるとあまり厳しくなく、様々な経験をすることが出来たと思います。また道や寮の共同スペースなどはあまり綺麗ではなく、日本にいるときよりは汚れが気になりましたが、帰国前には慣れていました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

何かあった時に大学に連絡をすることができたため、安心して過ごすことができました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンです。課題はほぼパソコンで行うため必需品でした。私は前に使っていたパソコンの調子が悪かったため、渡航前に新しいパソコンに買い換えました。またインスタントの日本食です。ミールプランがあっても日本食が食べたくなることがあったので、時々食べる時用によかったです。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力は上がったと感じています。また英語を話す機会が多かったので、以前に比べると英語を話す力が付いたと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

大変なこともあると思いますが、留学通じて、とても良い経験をすることができたので、是非留学をして頂きたいです。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

まだ詳しいことは決まっていますが、留学を通じて学んだことを就職活動の際や今後の

生活に活かしていきたいと考えています。

V. 写真

パークの写真です。



シカゴへ旅行に行った時の写真です。